

修士論文(要旨)

2019年1月

日中同形形容動詞の意味特徴からの分析

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

217J3012

芦 茜

Master's Thesis(Abstract)

January 2019

A Comparative Study of Homomorphic Adjective Nouns in Japanese and Chinese

Lu Xi

217J3012

M.A. in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Fumihiro Aoyama

目次

1	序論	1
1.1	研究範囲	1
1.2	先行研究	2
1.2.1	日中同形語の定義および範囲について	2
1.2.2	先行研究の問題点	3
2	研究対象	5
2.1	近代の日中言語交流	5
2.1.1	明治維新と日本語表記	5
2.1.2	中国語における外来語の歴史	6
2.2	梁啓超日本への亡命	7
2.3	『飲氷室文集』について分析	7
2.4	梁啓超が与えた日中語彙への影響	9
3	日中同形形容動詞の分類と考察	11
3.1	形容動詞を取りあげる理由	11
3.2	日中同形形容動詞の抽出	11
3.3	日中同形形容動詞への考察	13
3.3.1	形容動詞の特徴	13
3.3.2	日中同形形容動詞の分類	15
4	日中同形形容動詞についての対照研究	17
4.1	語彙面について	17
4.2	語彙の相違	17
4.3	語彙のズレが生じる理由	25
5	結論	27
5.1	まとめ	27
5.2	今後の課題	28
	謝辞	29
	参考文献	
	付録	

要旨

本研究は日中両言語における同形形容動詞について品詞の相違から考察するものである。日本語と中国語は言語体系は異なるが、日本も中国もともに漢字を使用している。また両国の文化交流にも長い歴史がある。中国語は外来語を吸収する際、自らの凝集力と改造力を持って対処してきた。外来語を中国語へ取り入れる際、外来語の中国語化は中国語の表記システムそれ自体の特徴がもたらした結果である。梁啓超はそのピークで、一番重要な人物に数えられる。『飲氷室文集』には大量の日本語からの外来語が収録されている。

本研究は、日中両言語において、同じ表記の二字漢語という同形語の単語を研究対象とするものである。ただし、日本語の二字漢語全般に関するものではなく、日本語における二字漢語の形容動詞を中心に、日中同形語のうち形容動詞に焦点を当てる。日本語での二字漢語の形容動詞は、日常数多く使用されている。その上、中国語と同じ漢字が使われていることが多い。語義面においては、日中同形語は意味の対応関係により、最も問題になりやすいものと言える。ここでは梁啓超の作品『飲氷室文集』における、日本語からの外来語、特に同形形容動詞について考察する。

1. 日本語と中国語で同じ用法を持つが、日本語にほかの用法もある場合には、日本語特有の語義について注意を喚起する必要がある。

このタイプの同形形容動詞は、品詞の面からみると、中国語の場合には一つの品詞しかないが、日本語の場合には複数の品詞がある。日本語は形容動詞だけではなく、名詞としての使い方もある。それに対して、中国語の場合は名詞、副詞など一種類の品詞のみである。日本語の同形語は複数の品詞を持ち、用法も中国語より多くなる(本文の4.2節に相当する)。

例えば:大事[だいじ]/大事[Da Shi]

「大事」は日本語でも中国語でも名詞として使われる場合がある。「重要な事柄。また、重大な事件。」といった同じ意味があり、反対語は「小事」である。日本語の「大事を取る」という慣用表現は「慎重に事を運ぶ」という意味を表す。中国語の“大事”には日本語のような意味もある。

ただし、中国語の“大事”には場合によって動詞と結びつく慣用表現がある。日本語で、大規模に行うという意味に相当する。日本語の「大事」に似ているが、語感は全く違う。例えば:(本文4.2節の例(d)に相当する)

(a) 西历十六世纪, 世界之大事踵起, 而人群之状态、制度、思想、学说, 皆为之一变。《飲氷室文集-十六世纪生计学》p. 470

日本語訳:1700年から、世界には大きな変化が起きた、民衆の状態、国家の制度、新たな学説などすべてにおいて変わった。

2. 日本語と中国語で同じ用法を持つが、中国語にそれに加えてほかの用法がある場合は、中国語では使われても日本語で使われない用法について注意を喚起する必要がある。

このタイプの日中同形形容動詞の同形類義語は中国語の品詞から見れば、連体修飾語として形容詞で使われることが多い。しかし、中国語では他の品詞を持つことがある。両言語の品詞が同じ場合、連体修飾語として、名詞に結びつく例では、おおむね両言語の意味は同じである。それに対して、中国語の同形形容詞は日本語に比べて多くの用法を持つ場合が多い(本文の4.2節に相当する)。

例えば:不便[ふべん]／不便[Bu Bian]

日本語の「不便」にも中国語の“不便”にも、連体修飾語として名詞を修飾する用法があり、また意味も同じである。「何かをするのに都合が悪いこと」「便利でないこと」という意味の両方を含んでいる。日本語の「不便」はいずれも具体的な場所や交通など生活に関する単語を修飾する。しかし、中国語の“不便”には形容詞だけではなく、動詞としても使用される場合がある。動詞としての意味は「持っているものの数が足りないこと」が含まれている。動詞の場合は抽象的な単語を修飾する。例えば: (本文4.2節の例(c)に相当する)

(b) 盖当时竹帛不便，学术之传播甚难。《饮冰室文集-论中国学术思想变迁之大势》p. 220

日本語訳: その当時、竹、織物などは紙として使われていたが、しかし流通する紙が不足していて、学術的な文章を普及させることが難しかった。

3. 日中両言語がそれぞれにほかの用法もある場合には、ほかの使い方で使用される語例を両言語から取り上げて説明することが必要である。

日本語の形容動詞はほとんど名詞として使われる場合が多い。日本語と中国語はそれぞれ複数の品詞があり、このグループには両言語で同じ品詞を持つ場合も生じてくる。そのため、同形類義語の品詞により、それぞれがほかの意味を持つ場合がある。そのような単語には注意が必要である(本文の4.2節に相当する)。

例えば: 不足[ふそく]／不足[Bu Zu]

「不足」は両言語では「足りないこと。欠けていること。不十分。不完全。」という意味を表わし、連体修飾語として名詞を修飾する。例えば「運動不足」、「睡眠不足」など。しかし、日本語で「不足」は形容動詞として「満足しないこと。不平に思うこと。」という意味も表わす、中国語にはそのような意味はない。また、“不足”には日本語に使われない意味がある。“不值得。”に相当する場合は、意味は日本語の「……するに足りない。……する価値がない。」に当たる。例えば: (本文4.2節の例(c)に相当する)

(c) 重商主义，既不过一时权宜之说，则其反动力之发生，固自不可避，故十七世纪之前半纪，攻难之说，既纷纷渐起。初时其力虽微，不足以动一世之耳目。《饮冰室文集-十七世纪生计学》p. 476

日本語訳: 重商主義は一時的で便宜的な措置なので、だから必然的に反発の声が起きる。17世紀前半から反対意見は徐々に高まってきた。こうして重商主義は影響力を持たなくなった。

さらに、日本語と中国語はそれぞれ複数の品詞を持つので、両言語で同じ品詞を持ちつつ異なる品詞を持つ場合がある。つまり、それぞれにほかの意味を持つことがある。また、日本語の形容動詞と同形の中国語は、連体修飾語としての使い方のみでなく、動詞や副詞としての使い方もある。

概して言えば、日中両言語で同じ漢字・漢語は使われていても、社会の歴史、言語文化や文法体系の相違により、意味のずれが生じる、中国人の日本語学習者にとっては、母語知識だけで日本語の漢語を使用することは実際のコミュニケーションに支障をもたらしかねない。

参考文献

日本語参考文献

- 荒川清秀(1975)「日中同形語について(一)」.『中国語教育』4、pp.17-26
- 石綿敏雄・高田誠(1990)『対照言語学』.桜楓社
- 王敏(2014)「音訳の中国語外来語と日本語外来語との対照研究」『日中語彙研究』10、pp.93-116
- 加藤稔人(2005)「中国語母語話者による日本語の漢語習得—他言語話者との習得過程の違い」
『日本語教育』125、pp.96-105
- 香坂順一(1980)「日中両国語の同形語について」『日語学习与研究』2
- 塩田雄大・飯間浩明・山崎誠・飛田良文(2004)三省堂国語辞典(第七版)
- 沈国威(1994)『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容—』.笠間書院
- 曹麗萍(1992)「日中同形語異議漢語について」『日本文学研究会会報』7
- 宋春菊(2003)「語彙から見ると日中同形語の異同」『求索』3、pp.21-26
- 田島優(2003)「明治時代の漢語」『日本語学』12、pp.25-32
- 田中建彦(2002)「外来語とは何か」『東京国際大学論叢』5、pp.107-115
- 玉村文郎(1997)『日本語学を学ぶ人のために』.世界思想社、pp.118
- 文化庁(1978)『中国語に対応する漢語』
- 牧田英二(1971)「中国語・日本語の漢字をめぐって—中国語のなかに移入された外来語としての日本語」『講座日本語教育』10、pp.162-169

中国語参考文献

(*下記の[M]は単行本、[J]は参考論文)

- 高名凱・刘正琰. 现代汉语外来语研究[M]. 文字改革出版社, 1958, 56-89
- 高名凱・刘正琰. 汉语外来语词典[M]. 上海:辞书出版社, 1984
- 李运博. 流入到近代中国的日语借词-梁启超作品中的日语借词[J]. 天津外国语学院学报, 2003(11), 37-40
- 李运博. 梁启超在中日近代汉字词汇交流中的作用[J]. 日語学习与研究, 2006(4), 46-51
- 梁启超. 饮冰室文集[M]. 北京: 中华书局, 1986
- 刘晓霞. 从日语借词看日语对汉语的影响[J]. 日語知识, 2001(8), 24-25
- 皮细庚. 日語概説[M]. 上海:上海外语教育出版社, 1996, 264-267
- 史有为. 中文外来词[M]. 北京:商务印书馆, 2000, 202-397
- 中国大学日語专业初级教学大纲[M]. 中国教育部, 2011